

☆復活の主日(4月12日)の聖書朗読☆

※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (使徒たちの宣教 10章34a、37～43節)

そこで、ペトロは口を開きこう言った。「神は人を分け隔てなさらないことが、よく分かりました。あなたがたはご存じでしょう。ヨハネが洗礼を宣べ伝えた後に、ガリラヤから始まってユダヤ全土に起きた出来事です。

つまり、ナザレのイエスのことです。神は、聖霊と力によってこの方を油注がれた者となさいました。イエスは、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人たちをすべていやされたのですが、それは、神が御一緒だったからです。わたしたちは、イエスがユダヤ人の住む地方、特にエルサレムでなさったことすべての証人です。人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが、神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。

しかし、それは民全体に対してではなく、前もって神に選ばれた証人、つまり、イエスが死者の中から復活した後、御一緒に食事をしたわたしたちに対してです。そしてイエスは、御自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く証しするようと、わたしたちにお命じになりました。また預言者も皆、イエスについて、この方を信じる者はだれでもその名によって罪の赦しが受けられる、と証ししています。」

第二朗読 (コロサイの信徒への手紙 3章1～4節)

さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。

福音朗読 (ヨハネによる福音書 20章1～9節)

週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。そこで、シモン・ペトロのところへ、また、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のところへ走って行って彼らに告げた。「主が墓から取り去られました。どこに置かれているのか、わたしたちには分かりません。」そこで、ペトロとそのもう一人の弟子は、外に出て墓へ行った。二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子の方が、ペトロより速く走って、先に墓に着いた。

身をかがめて中をのぞくと、亜麻布が置いてあった。しかし、彼は中には入らなかった。続いて、シモン・ペトロも着いた。彼は墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。イエスの頭を包んでいた覆いは、亜麻布と同じ所には置いてなく、離れた所に丸めてあった。それから、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来て、見て、信じた。イエスは必ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

主の復活おめでとうございます。本日の朗読の解説です。

第一朗読 (使徒たちの宣教 10章34a、37～43節)

ここでは主イエスの復活ののち聖霊を受けた弟子たちの代表としてペトロは、「主が本当に復活されて自分たちに現れた」ことを力強く証言しています。それまでのどこかおどおどした、自信なげなペトロの姿からは想像できない力強さです。「本当に復活なされたのだ」と、実際に見て体験したから言えたのでしょう。

第二朗読 (コロサイの信徒への手紙 3章1～4節)

パウロはよく上と下という対比を用います。ここでもそうです。復活したイエスに結ばれているのですから、上のものを求めなさい、地上のものに心惹かれないようにと勧めています。

福音朗読 (ヨハネによる福音書 20章1～9節)

ヨハネは他の福音で述べられている内容とは少し違ったことを記しています。墓にはイエスの遺体なかったと告げるマグダラのマリアの狼狽ぶりと、ペトロともう一人の弟子（ヨハネ？）が空になった墓を訪れてみたものは、イエスの遺体を巻いていた亜麻布。イエスが墓にはいないという事実。これをどう考えればいいのだろうか。弟子たちは思い悩んだ様子が語られています。それは、ガリラヤに行って解決するのです。

私たちの信仰生活も同じです。私たちにとってのガリラヤ、つまりいつも生活していたところで主イエスに出会うのです。あの人と出会った、あの子と出会った、いつもの小父さん、近所のおばさん。その人々にイエスを見ることが私たちのイエスとの出会いです

あの方は復活し、ガリラヤに行きそこであなたたちを待っておられる」。アレルヤ！